２月８日と２月９日の２班に分かれて関空をフライトした。天空は、晴天にして雲海の隙間より太平洋のみどりが目にしみる。６時間後にタイに。

闘争から生まれてくるものは、平和ではなく、難民であり、疫病である。

国際ロータリー 第2650地区
2002～2003年度 ガバナー　岡村 吾郎

６年前になる。奈良ＲＣのＷＣＳプロジェクトでカンボジアを訪れたので、それ以後、どれだけ発展しているかを楽しみにしてミッションに参加した。

「如何でしたか」と尋ねられたら、残念ながら発展、進歩の跡は余り見られなかったとしか答えられない。私は思うのですが、カンボジアは気候が温暖故に食物に恵まれて、あまり物を製造すると云う気持ちが起って来ないのではないだろうか。

只ただ、世界遺産のアンコール遺跡の観光にオンブされているように思えた。

随って特にシェムリアップでは、ホテルの建設ラッシュに目を見張る。軒並みホテルが建っており、又建設中である。外観は見事だが内装はお粗末、日本の三流のホテル並み、地方へ行くとクーラーはあるが機能せず、扇風機で、入浴の湯も充分に出ず、すぐ水になる。

道路は市内は整備されているが、一歩郊外に出ると舗装が悪く、凸凹自然道のそのままで、２月では乾期であったのですごいホコリ、前の車の茶色の砂埃で運転できないことしばしばである。道路は終戦時を思い出させた。

水は生水は飲用禁止。下痢をするので、ミネラルウォーターを忘れないで。油断すると、たとえば、ジュース、コーラ、ビールに氷を入れると、その氷は生水を氷らせているから下痢をする。多くの人が体験している。

人の出生率は高い割りにタイ、ミャンマーは町に人があふれているのに、カンボジアは町に人の群りが少ない。

６年前は歩いていると、物乞いする子供が多く、うろうろしていたが、どうしたのか少ない。学校へ行っているのだろうか。そんな風には思えないが。

町は３ヶ月ごとに変化していると云われているが私には、６年前と比べてあまり進歩していないことに驚いた。やはり内戦が続き、ポルポト政府は文化人を殺生した。その影響で進歩が遅れているのではないだろうか。

以上、カンボジアの印象である。

2002～2003年度ＷＣＳミッションにはカンボジアの医療困難地域の人々の救済の為、２月８日から２月15日まで58名のメンバーが参加した。

ポルポトとの長い内戦の影響で医療行政が遅れている地雷源のバッタンバン地域と約10万人が湖上で生活しているトンレサップ湖の二個所を奉仕対象地域とした。

バッタンバン地域は、600年前のクメール民族の国に戻そうとポルポトが叫び、今までの文化を放棄し、医者、学者等文化人を200万人殺し、農業に専念し、山の木々を切り倒して燃料とした為に、山はハゲ山で、家もまばら。道は荒れ放題で凸凹、医療は最低であった。そこでロータリーはこの地区に常任の医務官３名を配置した。

草原一帯は地雷が100万個もまだ埋められているとのこと。その除去は現在のところは機械化されずに手で掘っていると云う、気の遠くなるような話。住民が気を許して走ることも出来ない。極端なのは家の周囲が地雷だらけで家の前を通る細い道のみが安全と。ポリオの後には、１日でも早く地雷除去に世界が手をさしのべるべきだと感じた。

一方、トンレサップ湖地域は、漁業で暮らす約10万人が水上生活をしている。町から20分位で湖畔に到着し途中の道は地道で凸凹。はじめて子供が１$、１$と人差し指を伸ばして物乞いして車と一緒に走ってくる。

湖畔の家はアシで作られお粗末。水上生活で医療もままならず、ロータリークラブは水上集落を回る小型ボートを９隻寄贈した。そして訪問団がボートに乗り次々と各舟を訪れ、ポリオワクチン、ビタミンＡを経口投与、又、麻疹の注射etcをした。住民は暑いために全員上半身裸、下はパンツ、腰巻。原住民の生活はまだまだ未開発で、日本の生活が如何に幸せかを知らされた。不況不況と云いながら贅沢三昧の日本人が一度現地を訪れてみたら、己の幸せを実感するのではないだろうか。

※※※

職業奉仕の自己啓発

日文研教授 川勝平太氏を迎えて
職業奉仕セミナー・“生き方”を学ぶ

地区職業奉仕委員会　委員長　黒川正夫

月信Vol.7 でお知らせの「職業奉仕セミナー」が３月14日、京都センチュリーホテルで開かれました。

この日、岡村ガバナーはじめ、パストガバナー、ガバナー補佐、クラブ会長、会員など登録者は150名に及び、── 日本人なかんづくリーダーへの警鐘 ── 「富国有徳の理念で拓く21世紀」と題して、国際日本文化研究センター教授の川勝平太氏が、これからの世界に貢献する士大夫（真の紳士）の生き方について多くの示唆を話していただきました。

本年度ＲＩラタクル会長は、職業奉仕の重視をうち出し、ロータリーの本来の姿への復帰努力を全ロータリアンに要請しています。

地区職業奉仕委員会ではこれに応え、無軌道経営や消費者を忘れた企業エゴの風潮を断つため、せめてロータリアンとして職業奉仕の理念を身につけ、職業倫理を高めようと自己啓発を重点推進項目に掲げました。

上期には府県別職業奉仕委員長研究会で、大日方パストガバナーを講師に、「奉仕の哲学」を学びました。この下期はロータリーのあるべき姿を求め、職業奉仕委員長だけでなく、会員にも公開の職業奉仕セミナー特別講演会として開催した次第です。

今、ロータリーは何ができるのか、何をなすべきなのか、これでよいのかロータリーという課題も含めて、将来を考えていくための指針を、出席者はそれぞれに受け取っていただけたことと思います。

文庫通信（187号）

◎「わがロータリーへの道（抄録増補版）」　ポール・ハリス著；鈴木徹・竹山涼一・若佐武司共訳
札幌南R.C.　1996　126p　［申込先：札幌南R.C.　FAX(011)222-2744］

◎「奉仕理念の提唱者　アーサー・フレデリック・シェルドン」　田中毅
芦屋川R.C.　2002　85p
［申込先：芦屋川R.C.　FAX(0797)32-6888］

◎「英知と名言（抄訳）」　秦野R.C.　1998　55p　［申込先：ロータリー文庫（コピー）］

◎「これからのロータリー活動」 齊藤博　2003　7p（横浜南R.C.卓話）［申込先：ロータリー文庫（コピー）］

◎「ロータリーへのご案内」　長岡成郎　2001　43p　［申込先：長岡成郎　FAX(0480)33-4728］

◎「純ちゃんのコーナー（ロータリー３分間情報）」　深川純一　伊丹R.C.　2002　28p
［申込先：伊丹R.C.　FAX(072)775-1223］

◎「ロータリー・チャンネル」　長崎南R.C.　1992　44p　［申込先：ロータリー文庫（コピー）］

◎「新会員のためのロータリー用語」 小林茂　鷹巣R.C.　2002　45p［申込先：小林茂　FAX(0185)54-2324］

◎「小さなクラブの会長時間『点鐘』」　福山丸之内R.C.　2002　81p
［申込先：福山丸之内R.C.　FAX(084)927-5252］

◎「監壷先生と言う人　米山梅吉物語」　内藤茂雄　米山梅吉記念館　2002　40p
［申込先：米山梅吉記念館　FAX(055)989-5101］

ロータリー文庫 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3　abc会館7階　tel.(03)3433-6456・fax.(03)3459-7506
開館＝午前10時～5時　休館＝土・日・祭日　http://www.rotary-bunko.gr.jp

2003～2004年度　会長エレクト研修セミナー

新年度は秒読み段階！

去る３月１日（土）、けいはんなプラザの３Ｆ「ナイルの間」で、2003～04年度会長エレクト研修セミナーが開催されました。岡村ガバナーと福井ガバナー・エレクトとの共催であります。

ＲＩ元理事 千 玄室様、同じく小谷隆一様、多数のパスト・ガバナー様ほかご来賓の皆様方、ガバナー補佐・次年度役員・94名の会長エレクト、それにオブザーバーの方々を合わせて、155名のご出席となりました。なかでも、千 玄室様には、芸術院の名誉会員推戴のため、北京にご出発直前のご多忙を割いてのご臨席でした。しかも基調講演「ロータリー100年に向けて」を賜り、出席者一同に深い感銘を与えました。

次年度は、基調講演にもあったように大変な年であります。04年５月には国際大会（関西）があります。その翌年は国際ロータリー100周年という事で数々の記念事業が企画されています。すべて次年度に手掛ける課題であります。

次年度のテーマ「手を貸そう」の新機軸は「ロータリー家族への心遣い」であり、奉仕の強調事項へと展開していきます。

福井ガバナー・エレクトは次年度の多岐にわたる具体的案件を、ＲＩ会長賞への挑戦を中心に絞り込み、パワーポイントのスライドショーで説明を試みました。

第２部の分科会は、12グループに分かれ、９つのテーマについて協議がなされました。協議リーダーのグループ別発表は、適切で鋭く、会場の共感と感動をよびました。

第３部は岡村ガバナーの乾杯で始まり、懇親を深め決意を新たに散会しました。

ブリスベン国際大会と「日本人親善朝食会」へのお誘い

第94回国際ロータリー年次大会がオーストラリア・クイーンズランド州の州都ブリスベンで2003年6月1日から４日間開催されます。開催日の2003年６月１日に、恒例の「日本人親善朝食会」が開催されますので、ご参加賜りますよう、ご案内申し上げます。

・日時　2003年６月１日　午前８時30分から10時まで
・場所　Brisbane Convention ＆ Exhibition Center（大会会場）内プラザ・テラスルーム
・会費　お一人　3.000円　食事はQueenslander Breakfast をご用意
・お申し込みとお支払い方法
　東日観光（株）、（株）ＪＴＢ、（株）日本旅行、（株）日本通運、（株）阪急交通社、近畿日本ツーリスト（株）の６社をご利用の方は、それぞれの旅行社を通じてお申し込み下さい。その他の方は、ガバナー事務所にご連絡下さい。
・締切　2003年４月30日

Anniversary

早いもので創立10周年

京都朱雀ロータリークラブ　幹事　長谷川　彰

1993年3月17日、ロータリーのことなど右も左もわからない42名が、親(京都南ロータリークラブ)に手を引かれて、ロータリークラブという紳士の道場に入門して10年がたちました。爾来、和気藹々の楽しいクラブであり続けながら、会員の強い結束力により奉仕活動を次々と実践して参りました。

そして、本年度は、ビチャイ・ラタクル国際ロータリー会長が掲げられた「慈愛の種を播きましょう」というテーマを実践することを10周年記念事業の基本方針とし、「知的障害者への理解と支援」という理念に基づいて当クラブのテリトリー内にある知的障害者通所授産施設「西寺育成苑」に対する支援を行いました。この事業は、西寺育成苑通所者並びにご家族、鳥羽高校生及び当クラブ会員、家族の共同参加により、同苑中井施設長を講師に開催した社会奉仕フォーラムを皮切りに同苑の見学、淡路島ONOKOROへの研修旅行、旅行の思い出を160cm×130cmの２枚のキャンバスに絵画制作、西寺育成苑まつりでの吹奏楽演奏・模擬店・清掃奉仕など、広がりのあるものとなりました。私たちは、この事業で、障害を持つ人も持たない人も人間として地域の中で共に生きるという共生理念を理解し実践することの重要性を学びました。

また、３月15日には、岡村吾郎ガバナー、千玄室国際ロータリー元理事をはじめ多数のご来賓の方々にご参加いただき、創立10周年記念式典・祝宴を開催することができました。時節柄、華美にならずしかもご参加いただいた皆様に、京都朱雀ロータリークラブの10年の歩みを共に体感し、10周年を迎えた慶びをわかちあっていただける内容であったと自負しております。

今後も京都朱雀ロータリークラブは、奉仕と友情という基本理念を地域の皆様と協力して、地道に実践して参る所存でございます。今後とも当クラブへの暖かいご支援をお願い致します。

Anniversary

奉仕の心をつなげて25年

京都八幡ロータリークラブ　　幹事　福井　純史

1978年３月24日、石清水八幡宮神苑において23名のチャータメンバーによって当クラブが創立されました。山口善造ガバナー、堀場雅夫ガバナー特別代表のお世話により、京都ロータリークラブ・京都城陽ロータリークラブをスポンサークラブとして誕生した当クラブですが、早25年が経過しました。

25周年事業として、八幡市と友好都市関係にある中国陝西省宝鶏市麟游県竹林村の小学校に対し図書室・実験室・教室等老朽校舎の建て替え、机・椅子の入れ替え、図書・教育機材等の整備をするとともに、会員有志の好意による文房具の寄贈を行いました。平成14年10月11日に現地で行われた贈呈式には７名の会員が出席し支援金を贈呈するとともに現地の小学生一人ひとりに、日本から持ってきた文房具を手渡しました。現地の責任者は「遠い日本の京都八幡ロータリークラブの皆さんが『温かい愛』を届けていただき、喜びと感謝の気持ちは永遠に私達の心に刻まれることでしょう」と語っておられました。新しくなった教室でいきいき勉学に励む子どもたちを見て、この教育支援プログラムの意義を感じたものです。

この他に記念事業として、市老人会へのテーブルの寄贈、青少年の非行防止看板の設置、石清水八幡宮への時計台の寄贈、記念誌の発刊等を行いました。また４月19日には、「オープン例会・特別講演会」として、一般市民の皆さんにも例会に出席していただく機会を設け、ロータリーのＰＲに努める予定です。

なお去る３月18日に25周年記念式典を、八幡市流れ橋プラザ四季彩館において盛大に挙行しました。八幡市長・岡村ガバナーを始め多数のご来賓をお迎えし、堀場雅夫パストガバナーの「21世紀のロータリー」の講演を拝聴しました。

式典後の祝宴では、流れ橋が時代劇の撮影によく使われることから、剣劇のアトラクションが行われ楽しく和やかに過ごすことができました。

25周年を迎えた当クラブですが、今後も初心を忘れず、「親睦から奉仕へ」の気持ちを新たに、歩み続けていく所存です。

Anniversary

福井フェニックスRC10周年

福井フェニックスロータリークラブ

我福井フェニックスロータリークラブは、創立時より女性会員を有し・夜間例会とし・福井市内全域をテリトリーとする三大特色を有し、本年創立十周年を迎えました。まだ小学生、知能的にも運動力もこれからの年代です。我会員も、未来への期待感と共に、新旧・増減・経済状況という、きびしい波間での意識の変化を強く感じています。

しかし、姉妹クラブであります、台北陽光R.C.の方々40名が式典・祝賀会に来日されましたが、会員と奥様のペアー感覚と底ヌケに明るい民族性に感化され、当クラブにもマダムフェニックス合唱団が誕生し、我クラブ会員同志の強い「絆」になっています。

又、友好クラブの堺フェニックスクラブの方々とも、関西人のきめこまやかな感性やオモロイこと明るい笑顔など、雪深い環境で育つ、我らの「シメリッ気」と相生され、深いクラブ関係と意識が生成されてきています。

今年は創立十周年ということで、多方面の奉仕活動が展開されました。

７月には「青少年活動委員会」が主体となって、県内はじめ、滋賀・石川・富山などからも参加される、福井市少年サッカー選手権大会には、例年同様、優勝カップ・トロフィー・参加賞、そして今年はテント一張を寄贈いたしました。出席者は、大会関係のボランティアも引き受け、汗をかく年中行事の一つとなっています。

11月には、職業奉仕委員会が毎年ショッピングセンター内で開催してきました「医療無料相談会」を今年は国際奉仕委員会も加わり、福井県国際交流会館の協力を得て、福井市在住の韓国・中国・東南アジア・ブラジル・パキスタン人の方々に呼びかけ、医療・法律・家事の無料相談会を開催、我クラブの医師・弁護士・介護士・建築家・保険士の方々に悩みを聞いていただきました。約40名の参加があり、国内法を越えた所の相談も数多くあり、大変でしたが、成果アリと感じました。

12月には「文豪五木寛之先生講演会」を入場無料の形で、福井市文化会館で開催いたしました。「情（こころ）と情報」と題され、現代の人々のこころは乾いてきている。もっと“湿り”を持たせなければ……という話題から始まりました。「社会奉仕委員会・十周年事業委員会」が主体となり、福井県教育委員会の協力を得、県高等学校ＰＴＡ連合会が受け皿となって、市内12校の生徒さんに、聴講券500枚を配布。当日会員全員がフェニックスジャンパーを着用し、前の席の高校生指定席に案内。五木先生も、すぐに若者の一団をキャッチされ“自殺・戦争・平和”についての話をプラスされ、90分の講演は1000名を超える入場者を得て、感動一杯でおわりました。

１月には、ポリオ撲滅募金キャンペーンに関して、当会員で会長エレクトの松原六郎先生が、委員長されていて、会員の中に多数の方が、モンゴル、ベトナム、タイなどに出かけたり、募金寄付の理解と実現に汗をかいておられます。

３月には、ニューヨーク在住の画家・黒田征太郎氏と世界の舞踏家・麿赤児氏、中国・パリで大規模な個展を開催、ＮＨＫ大河ドラマの「武蔵」の題字・タイトルを書いている、書家で当クラブ会長の吉川壽一、そして、女性和太鼓奏者No.１で、市川猿之助氏と共演する池田美由紀の異色イベントが、福井県立音楽堂で開催された。「社会奉仕委員会」の提案で、福井県立養護学校高等部の学生200名に招待券を各校のＰＴＡ会長を通じて配布、当日は夜の開催なので、父母親の車で参加、会場の指定席へは、当会員が案内、36名の参加、父母親25名が来場され、一般の方々と共に、大きな驚きを歓声と大拍手で表情された。

10周年！例年の行事に新感覚をプラスした会員総意の汗一杯の奉仕活動が展開されました。11年目、近未来への新展望・発展に対して、新しい慈愛の種を播いて、世界の平和を早く実現したいものです。

Anniversary

三十五周年記念式典・事業を終えて

京都山科ロータリークラブ　幹事　橋本　幸男

山下泰裕先生の講演会

時節がら質素に、しかし会員の皆様の心に残るような式典・事業にしたいという実行委員会の思いから企画が始まりました。

祝宴は華美に走らずに会員が和気藹々となるような規模にする為に、ご来賓は出来るだけ限定させていただきました。

肝心の事業は、地域社会の人達に何か貢献出来ないかとの考えから、一般無料講演会を企画いたしました。そこで当クラブの井上勝会長が以前一度聴いて感動されたという柔道家であり教育者でもある東海大学教授の山下泰裕先生に白羽の矢を立て、一年前からラブコールを送り続けました。

しかしながら、なかなか色好いご返事がいただけず、半年程前ようやくある人を介して承諾のご返事をいただきました。

でもそれからが大変、講演会場はウエスティン都ホテル京都の瑞穂の間の半分、６００人はゆうに入れるという大宴会場。そこで井上会長の一言「これだけの方をお呼びして、会場がガラガラだったら山下さんに申し訳ない、どうにか７、８割の入りを確保してくれ」それからの会員の皆さんの観客動員におけるご協力は目ざましいものでした。各会員がチケットとチラシを持って、各学校へ、教育関係団体へと動員が計れそうな所へ次々と訪問いたしました。その甲斐あって「人生の金メダリストをめざして」と題しての講演会は当日、３月２５日（火）平日の４時４０分開演にも関わらず、予想以上の６５０名を超える人々に来ていただき、大成功を収める事が出来ました。

講演会は記憶に残る事業、もう一つ記念に残る事業としてＪＲ京都山科駅前に元会員で日展評議委員の柴田篤男氏に依頼し制作していただいたブロンズ像「風」を京都市に寄贈させていただきました。銘板には「二十一世紀に京都・山科の地から日本中に、そして世界の隅ずみまで爽やかで和やかな「風」が吹きますように、人間の英知が自然と環境を守り、万物、生きとし生けるものが共生できますように」と井上会長が記しました。

ＪＲ山科駅前に寄贈されたブロンズ像

［寄稿］ 職業奉仕

品質の向上をめざして ISO9001取得

上西 宗市（甲西石部RC）

弊社がISO9001の取得を意識し始めたのは今から３年前になります。食品業界ではまだ少なかったのですが同業他社の中堅規模の会社が数社取得をされており、出来ることなら早めに取得しようと決意しました。会社のイメージアップのためもありますが、もちろん品質向上が第１の目的です。費用も弊社の規模からいっても相当な負担となりますが、厳しい時代に生き残るためにはやはり安心・安全な商品作りをめざしていかなければならないというのが動機です。

組織として責任・権限が明確でないと何もかもが中途半端になってしまいがちですが、品質システムの確立によって各自それぞれの責任・分担が明確になり、責任意識が強まってまいりました。また、原菜の入荷から出荷までのトレーサビリティ（商品履歴）もいまや必要不可欠となってきています。何か問題が発生したときの対応に品質記録があるとないでは時間的にも信用においても大きな差が出てまいります。クレームの発生を防止することはもちろん重要なことですがその後の対応をいかに行うかによって信用をなくすこともあり、逆に信用を厚くすることもあるということです。

消費者の商品や企業に対する意識は年々右肩上がりに厳しくなっており、立ち止まっていてはついていけないどころか、遂には破綻してしまいかねません。そのようなことにならないためにも現在のシステムを発展・向上させることにより真の品質管理を行っていくと共に企業倫理の向上をめざしてまいりたいと思います。

奉仕の理想と職業倫理

出口 康雄（京都ＲＣ）

昨年の地区協議会にて、大日方パストガバナーがまとめておられた職業奉仕に関する貴重な冊子を戴き、米山梅吉翁、福島喜三次氏について、日本のロータリークラブ創設のご苦労と、大正デモクラシーといわれる社会経済発展の時代に、社会にもとめられた当時の職業人の倫理観を再認識させて頂きました。

戦後の発展一途でありました日本の経済は、バブル崩壊という構造的変化とともに、教育、社会の諸制度にいたるまでもう一度見直すべきとの国民の声は高まっています。猛スピードで進められてきた戦後の経済発展には同時に多くの公害と環境汚染という代償を払いました。学歴さえあれば希望の就職先と一生安泰の終身雇用というゆりかごのなかで、時代は多くの社会に無関心な無党派という若者を作り出しました。

経済的再建は先進国全ての問題とされている昨今、もう一度、米山翁のロータリー創設期のフォアウエイテストの精神にもとづく職業奉仕の理念を思い起こすべきであります。懸命に雇用の確保と事業の前進に努力されている企業人、専門職業人の各ロータリアンが社会のリーダーになるべきではないでしょうか。これからの企業は地域資源保護と環境保全が必須条件であり、さらに、日本人本来の伝統といやし系という自然調和を配慮した物作りが大切とされています。

戦後導入された教育制度も社会情勢の変化とともに、その矛盾が多々指摘され、朝令暮改のごとく精度の変革が実行されています。次世代を担う生徒達には一人一人が社会を作りあげるという概念を持たせるべきだと信じます。

我が社の朝礼

山野 義次（奈良東ＲＣ）

日本経済はバブル期崩壊後依然として長い不況で最悪の状態が続き、殊にデフレ市場で個人需要の低迷・金融不安・企業倒産・リストラと国民の不安心理が悪の方向へと一層進んでいるのが現状です。

このような経済環境に於いて企業の経営者は自分の企業存続、維持の為に大変なご苦労をされておられる事は申すに及ばないところです。私共の業界も情報通信関連産業（ＩＴ）の激変・再編・淘汰・通信・ネットビジネスの台頭とデフレの進行、外資産業の上陸、新業態の勃興、文具卸流通の再編、転廃業の進行等、大変な情況下におかれております。こうした苦境の中にあって如何に対処していかなければならないか、この度はその一端として我が社の従業員の奮起を促す為に取り入れております朝礼を紹介致します。

朝礼の発端は、家電業界シャープ（株）アトム研修にはじまります。アトムの名称は（Attack Team Of Market）「市場攻撃隊」です。アトム研修の目的は「人」と「組織」の活性化を計り、新しい時代の新しい販売戦略、つまり新しい人材開発の為の精神面の基礎訓練システムです。

売れた時代から不況下の今、売って出なければならない時代と変わり、社員個々の能力が一段と問われる時代となりました。高度な商品知識はもとより、如何にして訪問販売のノウハウを身につけるかがアトム研修の目的です。売れない時代こそ社員（営業マン）は市場に立ち向かう精神力・気力・行動力が絶対の必要条件です。

一日のスタートは朝礼で始まり、その朝礼での活力がその日の出発点だと信じて研修を実行しております。

１．計画なき行動成果なし。
２．いいわけするな、いいわけに前進はない
３．妥協を許すな、納得いくまで取り組め。
４．身を粉にせよ。それが成功の土台となる。

職場と奉仕

今西 俊明（峰山ＲＣ）

入会わずか３年の私、今年度の職業奉仕委員長を仰せつかっている因果と、ロータリーは頼まれたら断ることが出来ないという掟で原稿を書くことになりました。

私は精密機械製造分類のロータリアンです。当社の役員室には、「社訓」と「四つのテスト」の額を並べ掲げております。

これは、ロータリー歴43年の師であり、当社会長のアドバイスによるもので、企業経営とロータリー活動は両輪でなければならないという考えの表れです。

一方、府県別職業奉仕委員長会議で配布して頂いた、大日方パストガバナーの著書、「私の職業奉仕観」で、「古今東西いたる所に無我の立派な奉仕活動生活をすすめる教えというものは沢山あるが、その中で、人のためにつくす道はいろいろあるけれども、日常普段でやれるのは、自分の職業を通じての奉仕で、その実践が即ち、ロータリーなのである」と。また「奉仕とは、自分の職業に対して、誇りと愛情と責任を以って、その経営には最大級の努力を払うが、その方針は単なる金儲けばかりを目的とするのではなく、所謂、“ロータリー精神”“奉仕の理想”の精神というか、或いは“四つのテスト”の精神というか、そういうものを織り込んで企業の道徳的水準を高め、その職業を通じて社会に奉仕することである」と、述べられておられ私達ロータリアンの明確な方向を示すものであると考えます。

しかしながら21世紀に入り、新生、改革といわれる中で、産業界、大手メーカーの不祥事の連続が現実であるとき、企業としての方針の徹底と人を育てることこそが最大の課題であろうと思います。

厳しい経営環境の中ではあるが、企業人として、一人のロータリアンとして、道にはずれることなく企業繁栄に努めることが、最大の奉仕につなげられるのだ、と意を強くして！

環境から見た職業奉仕

小山　浩（水口ＲＣ）

環境問題が大きく報道され、大気汚染、水質汚染、土壌汚染など国民は大きな関心を持ち始めました。どこの家庭でもこの問題が一度は出たのではないでしょうか。一般の家庭で電気、水、ガスなどの節約に努められている方々が沢山おられます。我々企業もその一員にならなくてはとそんな思いで、我社は５年前にISO14000に挑戦致しました。このシステムのいいところは、企業にあった環境への取り組みができる事です。当然どの企業も車両を使い電気を使用しますし、この資源を無駄なく節約するという目標があれば経費の節約にもなります。また社員の家庭にも普及していきます。数字として目標を立てれば前年比が出ますから毎年見直せます。最近では大きな効果が現れてきました。申し遅れましたが私共の会社は水質、廃棄物を取扱う会社でお客様の声はダイレクトに伝わります。今住民の方々がどのように分別に取り組まれているのか、また、企業に何を望まれているのかが本当によくわかります。その声をどう企業が反映するのかもこれからの課題だと私は思っています。大量生産、大量破棄の時代はもう終わりました。後がないところまで来ています。ドイツやオランダなどは早くからこの問題に取り組んでいます。この世界基準もイギリスからきたものです。日本は少し遅れをとりました。中にはイギリスの策略だと言う方もおられますが、私は繁栄の中で日本人が忘れた節約の心を思い直すいい基準だと思っています。このつたない文章を読まれて一人でも多く取り組んでいただけたら日本の将来に対する大きな職業奉仕だと思うのです。

温泉雑感

宮崎　劭（宮津ＲＣ）

私の職場は日本三景「天橋立」を間近に望む海岸に建つ旅館である。前を旧国道が走り、駅まで徒歩１分。だが社業の為、地域活性化の為近年渇望するものが一つあった。それは温泉である。天橋立を有する丹後半島には温泉脈はないと言われ、唯一、僧行基に由来し千三百年余の歴史を持つ木津温泉だけであった。しかし、十数年前から半島西部を中心に温泉が湧出し２０余場を数えるまでになった。

当地でも宮津市が温泉探査を実施し、弊社の駐車場に泉脈が発見された。旅館に共同掘削を呼びかけたが、合意形成まで８ヶ月を要し結果７社の出資と地元協力金に行政の補助金を加え纏まった。工事開始後岩盤が固く、掘削進度が４０ｃｍといった日もあり、平成１１年１２月２０日の開湯まで１１ヶ月を要した。

時間を見つけ現場を見守り続けた。家族からは心労で食道全摘出という病を得たと言われたが私の不摂生も原因だろうと思っている。

幸い重曹泉「美人の湯」と言われる良質の湯が湧出し評判も上々であるが、つるつるの湯質の為浴室のタイルに無数のピンホールを開け、木部には刻みを入れて転倒事故を防いでいる。最近さらに厄介なレジオネラ菌の問題が起こった。弊社も湯を循環利用しているが、一週一度の入れ替えは勿論、研究熱心な施設課長の指導のもと、電気分解で塩素を得る装置を導入し、配管等の高濃度殺菌や６０度１時間の高温消毒を実施、絶対に菌を出さないよう全社をあげて懸命の予防をしている。

職業奉仕に関するアンケート調査について

深井　泰俊（橿原中央ＲＣ）

本年度の職業奉仕の方針を検討するために全会員にアンケート調査（2002年９月）を行った。回答者は５４名中４０名（７４.１％）であった。

調査項目：（１）入会年数、（２）職種、（３）職業奉仕は金看板であるか、（４）職業奉仕は“I　serve”か“We　serve”か、（５）“We serve”に取り組んだことがあるか、（６）“We serve”としての職業奉仕はの６項目であった。

成績：字数の制限上、上記の（３）（５）の調査項目に絞った。

（３）項目：特に重要な部門である
……１９名（４７.５％）
どちらかと言えば重要な部門である
……１６名（４０.０％）
であり、圧倒的に多かった。

（５）項目：取り組んだことがある
……１４名（３５.０％）
職業奉仕のことは念頭にあるが中々実行が出来ない
（何をしたら良いのか迷ってしまう）
……１８名（４５.０％）
具体的な助言があれば実行してみたい
……　６名（１５.０％）
であった。

入会年数、職種には関係がなかった。“I　serve”は地域住民への健康相談、講演、中・高校生の職場体験、研修、朝礼、職場内教育、司法相談、自分の仕事に誠意をもって熱心にやること等であった。

方針：奉仕の内容を例会時に紹介すると共に職業倫理のつれづれ、（職業奉仕からわ版、2002～2003、第2650地区職業奉仕委員会）から抜粋した倫理を説明（第一報2002.11月、第二報2003.２月）し、会員の職業奉仕に対する認識を高めることにある。

高校生への職場見学会を実施して

島本　憲司（京都城陽ＲＣ）

昨年10月中旬、京都城陽ＲＣでは、府立城陽高校生への職場見学会を実施した。

参加者は城陽高生35名、先生５名、ＲＣ会員15名の参加を得て、会員企業であるジスグランデ（株）宇治田原工場で実施。

工場見学のあとＲＣ森澤会長挨拶、石見社長のユーモア溢れる話に皆熱心に聞き入っていた。その後４グループに分かれ、グループディスカッションを行い、社員の方々、生徒、先生、ＲＣ会員による質疑応答があった。

見学終了後高校生のアンケートを拝見したが、参加生徒が全員卒業後就職を希望している事もあり、就職活動へのアドバイスや実際の仕事の厳しさ、社会人としての心構え、また製造業の内容等大変参考になったという意見が多かった。

この事業を終えて、職場見学会は、職業奉仕における事業として非常に意義ある事を確信した。まず生徒にとっては、

１．仕事というものについての理解
２．就職意識の向上
３．仕事を通じての社会への目ざめに役立つ

ＲＣにとっても職業を通して社会に奉仕するという原点に合致した事業と思う。

今の若い人達は、

１．なんのために生きるのか
２．人はどう生きるのか
３．仕事は、そのためにどういう役割を果しているか

についてはっきりしない。

また温室育ちというか、社会での実践経験があまりにも少ないので、ＲＣのこういう事業によって魂を揺さぶられる位の印象を持つらしい。また学校も就職進路指導部があり、高校生の就職活動を支援しているが、社会性がないというのか、余り効果が上がっているのか疑問である。そういう面で、実社会をしらない子供達や先生方にとって、「企業が教え育てる場である」という認識や社会的視野を広める大変よい機会となった事を確信して結びとさせて頂く。

留学を終えて

2001-2002年度　財団国際親善奨学生　手記

［留学先］
タイ国
チュラロンコーン大学

タイ・バンコクで学ぶ　澤井　なつみ

私は、2001-2002年度ロータリー財団国際親善奨学生として、東南アジアのタイ国、首都バンコクで学ばせて頂きました。3350地区のBangrak ＲＣで受け入れて頂き、国立大学で英語科教授をされているサオワラックさんという女性にお世話頂きました。

国立チュラロンコーン大学文学部で学部と大学院の授業を聴講し、タイの仏教について学びました。キャンパスの知的空間を離れると、そこには南国独特の熱気に包まれた人々の暮しが広がりました。タイ人の生活文化に直接触れることで、今までわかり難かったタイ人の気質が納得できたり、たくさんの新しい発見がありました。同時に自らを省みる良い機会にもなり、時の流れ方が違う常夏の国にいると、日本では当り前だった四季の移ろいがなんとも懐かしく感じられたりもしました。お世話になったロータリーの方々、知り合った多くの友人知人のお陰で、毎日が刺激的で楽しいものになりました。タイ語で意志疎通ができなければ、成り立たない生活で、あらためて言葉の大切さを思い知らされました。

現在は、留学中に収集してきた資料をもとに、研究論文の発表にむけて準備を進めているところです。今回のバンコクでの留学生活は、自らの研究の上に、また、今後のタイ国との関わりにおいて大きな弾みとなりました。誠にありがとうございました。

［留学先］
アメリカ合衆国
アリゾナ州

留学で得たこと　岩崎　由希子

海外に住むことで貴重な体験をたくさん得ましたが、より豊かな精神力や柔軟性を得られた点ではほかでは味わえない醍醐味がありました。語学や学部の勉強以上に、日本人としての自覚やアジアへの誇りが芽生えたことは、私にとって大きな成果でした。海外にでて、はじめて日本を客観視できるようになり、日本の事もよくわかるようになるのです。その国の文化や歴史を学ぶことも楽しい経験でした。社交性というものは、語学の伸びや文化理解の速度と十分に関わっていて、イベントやパーティーに頻繁に出てコミュニケーションを図るたびに現地の環境に慣れていく自分を見つけられてうれしかったことを覚えています。

そんな経験を通して学んだことは、「人間に差異はない」という事。どんな文化や歴史背景があっても、感じたり、おもったりする「心」は同じです。語学はそういった

状況間での差異を縮める、あくまでも手助け。実際に海外に行って、現地の環境を見て触れることへの大きな意義も感じたのです。

これからは、こういった海外経験をいかして国際理解に貢献できるような社会活動をしたいと思っています。こんなすばらしい機会を与えてくださったロータリー財団の皆さんにとても感謝するとともに、もっとこのプログラムが社会に理解されていくことも望みます。そしてずっとこのプログラムが続きますように！

［留学先］
フランス
ブルゴーニュ大学

フランス留学の２年間

中堀　博司

私は、フランス東部のディジョン市に２年間留学しました。ディジョンは、高貴な赤ワインで名高いブルゴーニュ地方の中心都市です。また、マスタードやエスカルゴでも知られています。さらに中世ヨーロッパに名を馳せたクリュニーやシトーの修道院もこの地方にあります。ただ、私がブルゴーニュ大学DEA課程で取り組んだのは、そうしたキリスト教会の歴史ではなく、中世末期のドイツ・フランス間に四代一世紀に及んで強大な勢力を誇ったヴァロワ家ブルゴーニュ公国の歴史です。そしてかつてモーツァルト一行が演奏を披露した優美な旧市庁舎大広間（現コート・ドール県文書館閲覧室）で、羊の皮に書かれた文字を書き写すのが私の仕事の一つでした。現在は、そこから歴史を紐解いている最中です。

他方、ロータリーの会合にも色々と参加させて戴きました。ホスト・クラブであるディジョン西クラブの会長さんは、第３月曜日のディナーには必ずお誘い下さいました。街のやや北のはずれにあるホテル・メルキュールが会場です。このホテルで講演する機会も戴きました。私は、桜井をはじめ、奈良とその周辺から日本の歴史が始まったこを、文化遺産のことと絡めてお話致しました。

最後に、先日、京都の会合でも申し上げましたが、この２年の留学を通じて多くのことを学ばせて戴きました。ただ一つ挙げるならば、国際的な親善・交流が思っていたほど難しいものではない、というような確信でしょうか。それもロータリーの奨学金プログラムがあったからにほかならず、感謝の念に堪えません。

2650 地区探訪

地区内の伝統的な「行事」や「芸能」「食」などに関する話題を地元ＲＣからお伝えします

白狐渡御（源九郎稲荷祭）

大和郡山ＲＣ
田村　良平

毎年、郡山城の桜の開花期である４月上旬に「お城まつり」として、色々な催し物が連日行われている。柳沢神社拝殿では明治35年以来続けられている金魚の品評会や、大数珠繰り法要、また時代行列や源九郎稲荷神社に伝わる伝統芸能の白狐渡御が市内の目抜き通りを練り歩く。

源九郎稲荷神社は洞泉寺にあり、祭神は宇迦之御魂神（保食神・うけもちがみ）であり、保倉神社とも呼ばれている。源義経が兄頼朝の討手を逃れて、吉野山に落ちのびたとき、白狐が佐藤忠信に化けて、即室静を送り届けたので義経は謝意から源九郎の名を贈り、それが社名の由来になったとの話が伝わっている。

天正13年（1585）九月豊臣秀長は郡山城に入った。彼は城の南に宝誉上人という高徳の僧がいると聞き、城内に招いて法話を聞いて感服し帰依した。上人はある夜、源九郎と名乗る白狐が白髪の老人の姿で現れ、郡山の南に御堂を建て茶枳尼天（だきにてん）を祀れば守護神になろうと言ったことを物語ったところ、秀長は上人に御堂を建ててやり、上人は三河誉母郡霞渓山洞泉寺の寺号をここに移し、自ら源九郎茶枳尼天の像を刻み、境内の別の祠堂に安置して日夜勤行を怠らなかった。秀長は源九郎の神通力を試そうとある日、上人に命じて源九郎を呼び寄せたところ、源九郎は裃を着用し一族を連れて登城し、秀長の前で霊験を示した。驚嘆した秀長は洞泉寺境内に神祠を建てて源九郎狐を祀らせた。

白狐渡御は市内をねり歩く行事として、昭和初年ごろ洞泉寺郭が繁栄の時、楼主たちが中心となって始められた。戦時中中止されていたが、昭和53年、大和郡山青年会議所、市青年団体協議会、源九郎稲荷神社奉讃会などが復活させ、昭和58年よりお城まつりの行事として行われるようになった。祭礼当日には白衣に狐の面をかぶった少年、少女が白狐囃子（びゃっこばやし）に合わせて手拍子よろしく市内の目抜き通りを踊り歩く。

白狐囃子
作詞 酒井雨虹　作曲 中山晋平
振付　島田裕

大和郡山源九郎さんは
　いくさ守りの稲荷さま
武将義経　千本桜
　護る忠義の源九郎
真鳥打ち取りゃ天下泰平
　これも源九郎さんの御神徳

今、見直そう　心の教育を

―中江藤樹（日本陽明学の祖）の教えと儒式祭典―
生駒山寶山寺の伝統行事

高島ＲＣ
川島　達郎

高島ロータリークラブの事務室に『中江藤樹先生の教え』が書かれた額が掲げられている。これと同じ額が、滋賀県庁の知事室にも掲げられている。そこには、「致良知」「孝行」「知行合一」「五事を正す」という中江藤樹の四つの大切な教えが書かれている。

この中江藤樹先生の道徳を偲び、私塾藤樹書院では、命日の９月25日に儒式による祭典が行われる。この祭典は先生の没後、地元の人達によって絶えることなく350年余り続けられてきた古式にのっとり行われる。この行事は我が国では珍しく安曇川町無形民俗文化財に指定されている。

この祭典は、上小川の古老と青年達によって伝承されていて、特別の祭典次第に従って、書院の理事（賽主をつとめる）と青年３名（助事１名、助奠２名）と区長（進盥）が黒紋付の着物、裃に威儀を正し、祭典に奉仕する。

祭典は、序立から始まる。進盥が別室で賽主に盥を進め、水を注ぎ手を清め、終われば親指を中にして左手を上に手を組み胸に当てる。それが助事・助奠と順番に進められる。この手の組は式が終わるまで解かない。

次に啓門、助事が雛具（拍子木の如き物）を鳴らし「啓門（ケイモム）」と微音で唱えると助奠２名が進み出て、正面・側面の帳を巻き上げる。ここより本番の祭典が始まり、次のような順序で進められる。

・参神　賽主が跪座して四拝する。
・降神　賽主が懐中より香を取り出して、香炉に供える。跪座して二拝。

・進饌　賽主が供物を供える。
・侑食　供えてある白飯に箸を立てる。
・初献　酒と水鳥を供える。
・読祝　賽主が微音で祝文を読む。
・亜献　酒と野鳥を供える。
・終献　酒と獣肉を供える。
・闔門　助事が帳をおろす。
・説遺　賽主が微音で藤樹規を読む。
・啓門　助事が帳を上げる。
・献茶　お茶とお菓子を供える。
・撤饌　進饌物を下げる。
・辞神　賽主が跪座して四拝する。
・闔門　助事が雛具を鳴らし帳をおろす。
・送主　序立の位置に戻り賽主が進盥に祝文をわたす。
・焚祝　進盥が祝文を焼く。

このようにして、儒式祭典が終了する。
◎式の順序は助事が微音で唱える。

私達高島ロータリークラブの活動テリトリーを一にする高島郡城では、今も藤樹先生の高邁な思想は脈々と受け継がれ、郡内小学校で「心の教育」副読本として活用されている。